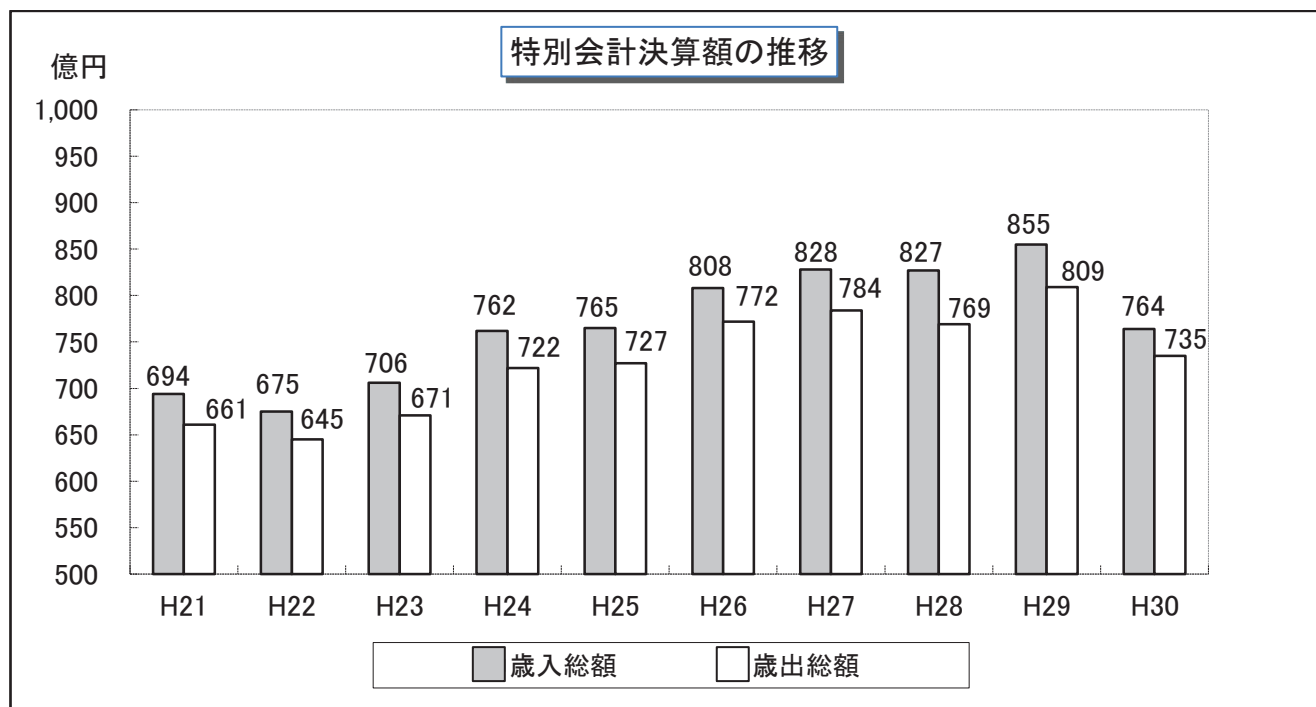


1.1. 特別会計の決算状況

平成30年度の特別会計歳出総額は、国民健康保険特別会計において財政運営の都道府県広域化などの影響があったことや、競輪事業特別会計において前年度に開催された読売新聞社杯全日本選抜競輪（G I）の反動減があったことなどによって、前年度に比べて74億円の大幅な減となりました。



特別会計歳出決算額の推移

(単位：億円)

| | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 |
|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 競輪事業 | 166 | 155 | 156 | 183 | 156 | 172 | 164 | 158 | 184 | 149 |
| 国民健康保険 | 273 | 261 | 281 | 285 | 305 | 320 | 342 | 329 | 326 | 294 |
| 食肉センター食肉市場 | 5 | 5 | 5 | 6 | 6 | 6 | 7 | 7 | 6 | 7 |
| 土地区画整理事業 | 8 | 7 | 6 | 6 | 6 | 4 | 4 | 3 | 2 | 2 |
| 住宅新築資金等貸付事業 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 農業集落排水事業 | 4 | 4 | 3 | 4 | 6 | 6 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 介護保険 | 150 | 157 | 164 | 178 | 189 | 202 | 205 | 211 | 221 | 216 |
| 後期高齢者医療 | 41 | 42 | 43 | 47 | 50 | 53 | 55 | 58 | 60 | 63 |
| 三泗鈴亀農業共済事務組合清算 | — | — | — | — | — | — | — | 0 | 5 | — |
| 公共用地取得事業 | 13 | 13 | 13 | 12 | 9 | 7 | 5 | — | — | — |
| 老人保健医療 | 1 | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 合 計 | 661 | 645 | 671 | 722 | 727 | 772 | 784 | 769 | 809 | 735 |

数値は四捨五入していますので、合計が合わない場合があります。

医療保険制度の改正に伴い老人保健医療特別会計は廃止し、後期高齢者医療特別会計を設置しました。

公共用地取得事業は、平成27年度に返済が完了しました。

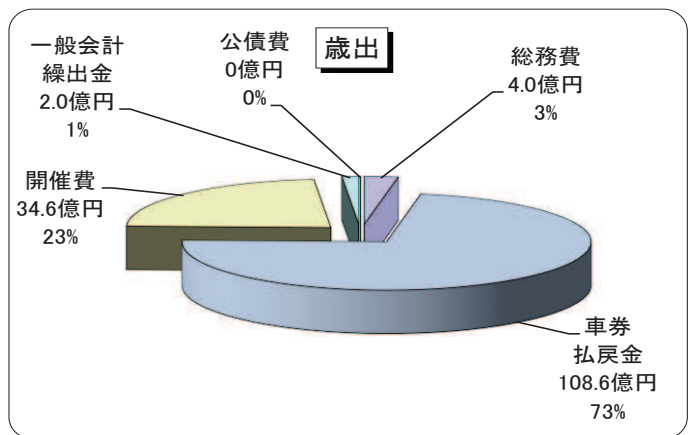
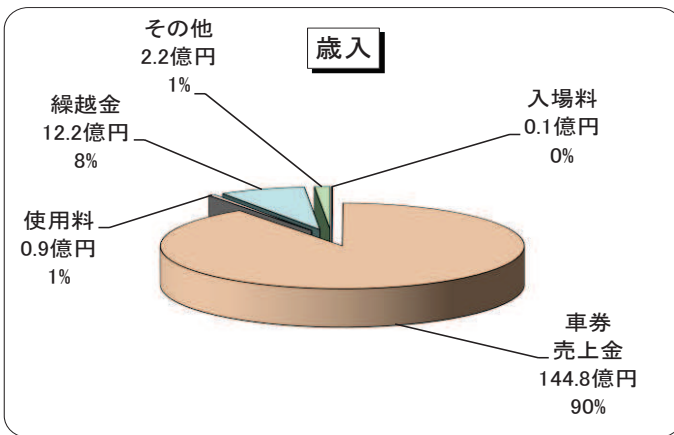
三泗鈴亀農業共済事務組合清算特別会計は、平成29年度に事業が完了し、廃止しました。

【主な特別会計の概要】

競輪事業特別会計

| 区分 | 決算額 | 対前年度増減 | |
|-----|--------------|--------------|--------|
| 歳入 | 16,021,906千円 | △3,647,231千円 | △18.5% |
| 歳出 | 14,920,318千円 | △3,529,278千円 | △19.1% |
| 差引額 | 1,101,588千円 | △117,953千円 | △9.7% |

全国の子券売上額は、平成3年度から平成25年度まで減少していましたが、平成26年度以降は微増傾向にあります。こうした中、本市の平成30年度の子券売上額は、普通競輪（ナイター競輪、西日本カップ競輪）で、全国的にナイター競輪に参入する施行者が増加して開催日程が重複したことなどから、9,653,206,600円、前年度比3.1%減となり、Gグレードレースで、平成29年度に開催した特別競輪（GI）から記念競輪（GIII）に開催のグレードが変更になったことや、全国的なGグレードレースの売上減少傾向により、4,825,166,400円、前年度比42.1%減となりました。その結果、年間総子券売上高は14,478,373,000円、前年度比20.9%減となりました。さらに、一般会計への繰出金について当初の予定どおり200,000,000円の繰出を行ったほか、ファンが快適に施設を利用できるよう、空調設備更新工事等を実施しました。

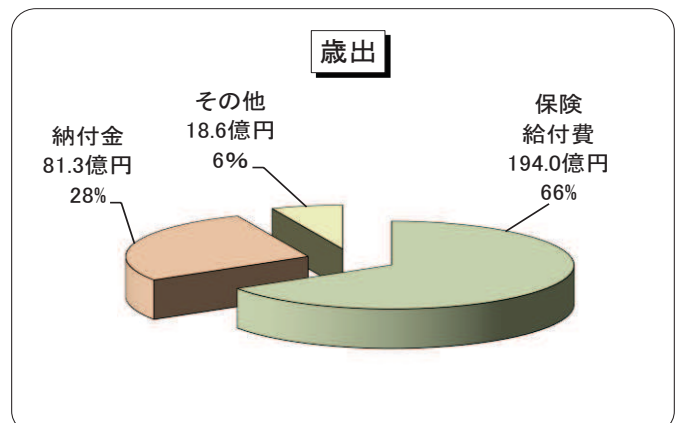
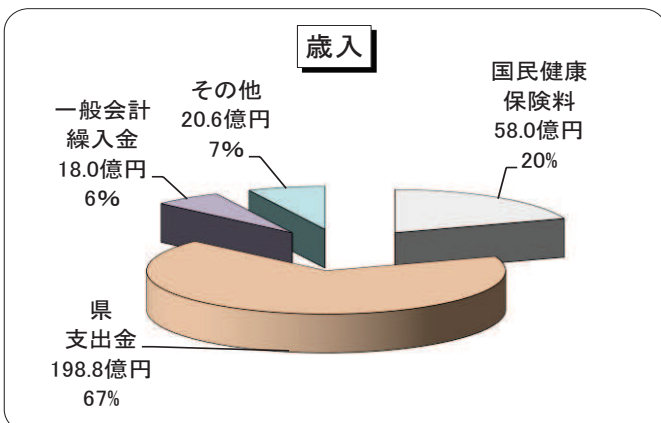


国民健康保険特別会計

| 区分 | 決算額 | 対前年度増減 | |
|-----|--------------|--------------|--------|
| 歳入 | 29,541,492千円 | △5,082,422千円 | △14.7% |
| 歳出 | 29,388,018千円 | △3,252,662千円 | △10.0% |
| 差引額 | 153,474千円 | △1,829,760千円 | △92.3% |

平成30年度の平均被保険者数が59,937人と、前年度に比べ2,855人(4.5%)減少したため、保険料収入額は、5,800,346,233円と前年度より282,519,613円(4.6%)減少しました。一方、医療費については、一人当たりの費用額が380,257円と前年度に比べ14,399円(3.9%)増加したものの、保険給付費全体としては19,402,681,294円と、前年度に比べ30,534,477円(0.2%)の減少となりました。このように、被保険者数は減少するものの、一人当たりの費用額は増加する傾向が続いています。

なお、平成30年度から財政運営の都道府県広域化が開始したことに伴い、歳入・歳出ともに対前年度増減は10%を上回る減となっています。

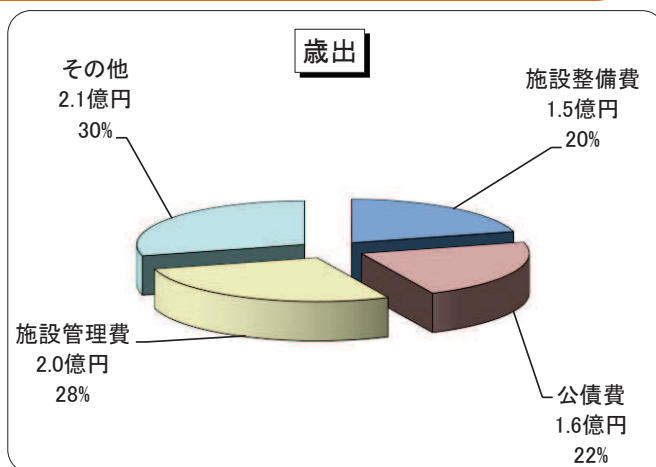
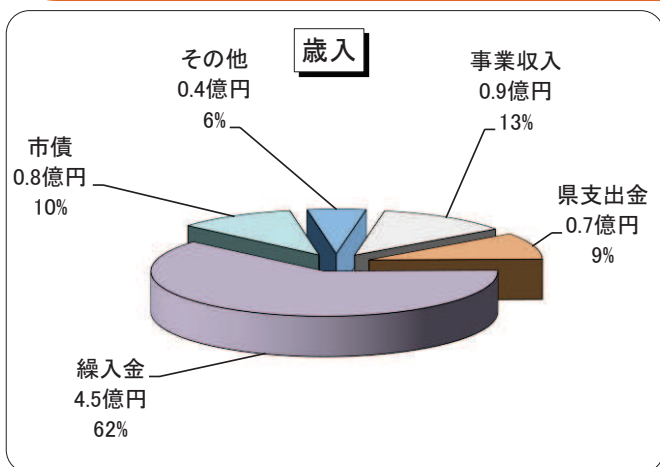


**食肉センター
食肉市場特別会計**

| 区分 | 決算額 | 対前年度増減 | |
|-----|-----------|----------|--------|
| 歳入 | 729,297千円 | 86,381千円 | 13.4% |
| 歳出 | 717,569千円 | 80,377千円 | 12.6% |
| 差引額 | 11,728千円 | 6,004千円 | 104.9% |

消費者に安全で安心な食肉を供給し、衛生的かつ効率的な作業環境を築くため、枝肉出庫用ドロップパーの更新などの施設整備を実施しました。

と畜実績については、牛は4,056頭で前年度より20頭の増、豚は91,784頭で前年度より1,040頭の増となりました。市場使用料については、卸売価格の低迷により、牛は1,713,207円で前年度より212,345円の減、豚は7,066,258円で前年度より402,469円の減となりました。さらに、市場取引頭数については、牛が928頭で前年度より222頭の減、豚が91,894頭で前年度より1,346頭の増となっています。

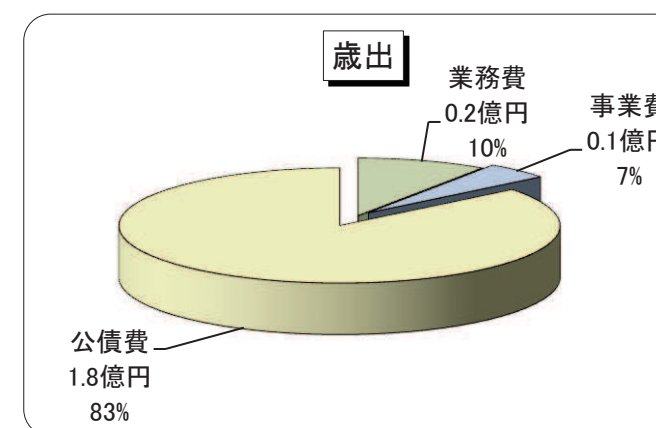
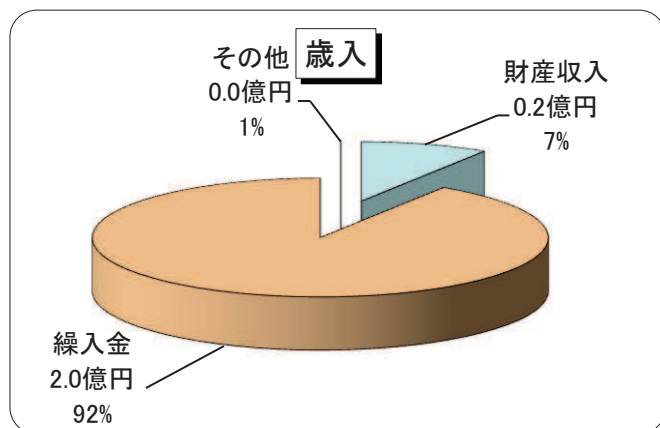


**土地区画整理事業
特別会計**

| 区分 | 決算額 | 対前年度増減 | |
|-----|-----------|-----------|---------|
| 歳入 | 216,733千円 | △32,942千円 | △13.2% |
| 歳出 | 214,685千円 | △34,897千円 | △14.0% |
| 差引額 | 2,048千円 | 1,955千円 | 2102.2% |

未永・本郷土地区画整理事業については、引き続き残りの清算金の徴収を行いました。

午起土地区画整理事業については、市と午起土地区画整理組合で進めていた境界確定訴訟の最高裁判決が下り、工事着手に向け事業の進捗を図ることができました。

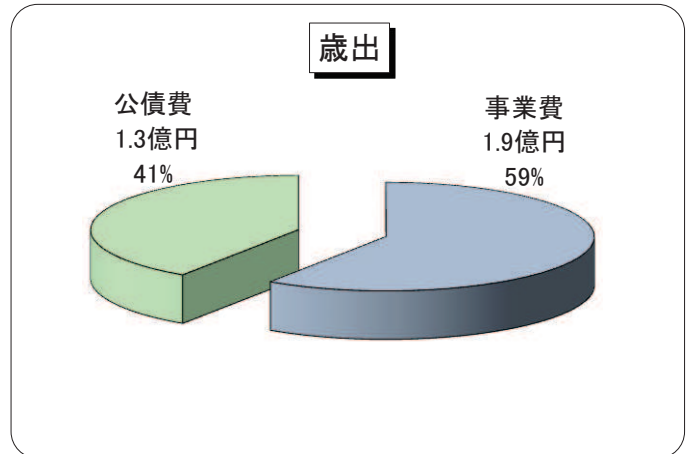
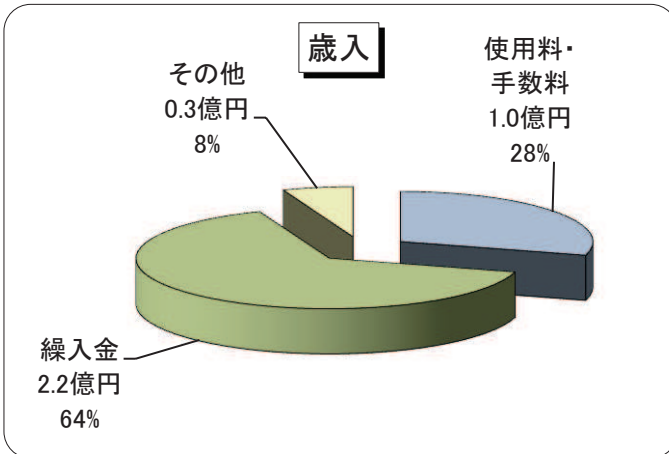


農業集落排水事業 特別会計

| 区分 | 決算額 | 対前年度増減 | |
|-----|-----------|-----------|-------|
| 歳入 | 346,518千円 | △16,787千円 | △4.6% |
| 歳出 | 319,637千円 | △17,367千円 | △5.2% |
| 差引額 | 26,881千円 | 580千円 | 2.2% |

平成30年度の水洗化戸数は、平成27年度に供用開始した水沢東部地区及び和無田地区で接続戸数が増え、2,093戸と前年度より24戸(1.2%)増加しました。その結果、使用料収入も98,370,180円と前年度より583,200円(0.6%)増加しました。

今後、処理区域内の人口減少や施設の老朽化により、経営状況が厳しくなることが想定されるため、より一層の効率的な事業運営を図り、更なる経費削減に努めていきます。



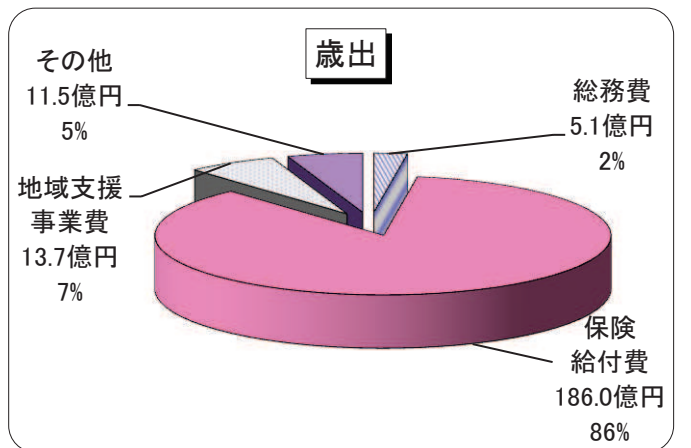
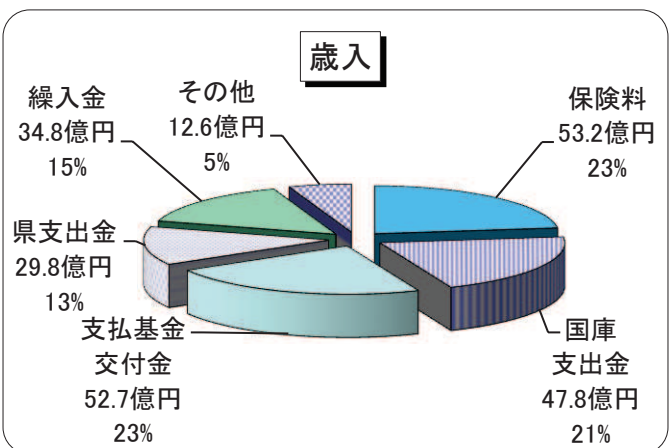
介護保険特別会計

| 区分 | 決算額 | 対前年度増減 | |
|-----|--------------|------------|-------|
| 歳入 | 23,094,113千円 | △234,941千円 | △1.0% |
| 歳出 | 21,626,289千円 | △478,927千円 | △2.2% |
| 差引額 | 1,467,824千円 | 243,986千円 | 19.9% |

平成30年度末要介護認定者数は13,256人(要支援5,018人・要介護8,238人)と、前年度末の13,306人(要支援4,754人・要介護8,552人)から50人(0.4%)減少しました。

保険給付費は、介護予防・日常生活総合事業の開始にかかる地域支援事業費への移行に伴い18,599,118,732円と、前年度より72,422,952円(0.4%)減少しました。

なお、介護予防・日常生活総合事業等にかかる地域支援事業費については1,374,955,109円と、前年度から413,162,987円(43.0%)増加しています。

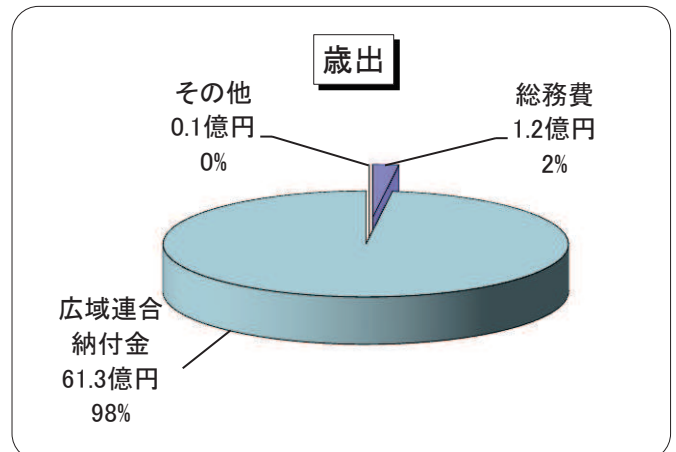
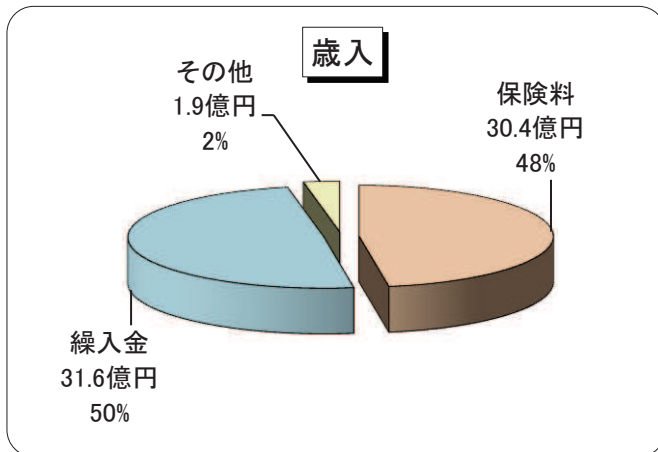


**後期高齢者医療
特別会計**

| 区分 | 決算額 | 対前年度増減 | |
|-----|-------------|-----------|-------|
| 歳入 | 6,385,725千円 | 287,048千円 | 4.7% |
| 歳出 | 6,255,466千円 | 287,083千円 | 4.8% |
| 差引額 | 130,259千円 | △35千円 | △0.0% |

平成30年度末の被保険者数は、39,689人と前年度より1,190人(3.1%)増加し、保険料収入額についても3,039,241,366円と前年度より113,584,411円(3.9%)増加しました。

また、広域連合納付金のうち療養給付費負担金については、被保険者の増に伴い2,370,364,000円と前年度より39,840,000円(1.7%)増加しました。



12. 桜財産区決算

桜財産区

| 区分 | 決算額 | 対前年度増減 | |
|-----|----------|---------|--------|
| 歳入 | 45,156千円 | 1,180千円 | 2.7% |
| 歳出 | 1,971千円 | △319千円 | △13.9% |
| 差引額 | 43,185千円 | 1,499千円 | 3.6% |

財産区とは、市町村の一部で財産を有し、または公の施設を設け、その管理及び処分を行うことを認められた特別地方公共団体です。

本市では、財産区管理会が桜財産区の管理を行っています。

桜財産区の所有する山林 162,315.14 m²（公簿地積）のうち、82,051.84 m²（実測地積）を公益財団法人四日市市文化まちづくり財団に貸し付け、アスレチックコース等の用に供したほか、その貸付収入で山林保育等の管理を行いました。

13. 水道事業会計決算

給水戸数は151,722戸で前年度に比べ1,965戸(1.3%)増加したものの、一般家庭における節水意識の向上及び節水機器の普及や、企業における施設改修などにより使用水量が減少したことなどから、年間総配水量は39,783千 m^3 で前年度に比べ147千 m^3 (0.4%)の減少、年間有収水量は35,795千 m^3 で前年度に比べ194千 m^3 (0.5%)の減少となりました。

損益計算においては、収益76.4億円^(※1)(対前年度比0.5%増)、費用は62.4億円^(※2)(対前年度比1.7%増)となり、差引14.0億円の当年度純利益が生じました。これに企業債償還に充当した減債積立金を振替えた9.8億円と合わせて、当年度未処分利益剰余金は23.8億円となりました。

主な事業では、第二期水道施設整備計画に基づき、水源確保として朝明4号井の更新工事を実施するとともに、新たに朝明1号井の更新工事に着手しました。また、基幹施設の耐震化、経年管布設替、経年施設の更新を実施しました。

※1…下表「2. 損益計算書」の 1 営業収益+3 営業外収益+5 特別利益

※2…下表「2. 損益計算書」の 2 営業費用+4 営業外費用+6 特別損失

消費税及び地方消費税の取扱いについては、損益計算においては税抜額で計上しています。

1. 主要業務量

※()は、対前年度増減を表す

| 区 分 | 平成30年度 | 平成29年度 | 平成28年度 |
|-------------------------|------------------------|-----------------|------------------------|
| 給水戸数(戸) | 151,722 (1,965) | 149,757 (1,663) | 148,094 (1,778) |
| 年間総配水量(千 m^3) | 39,783 (Δ 147) | 39,930 (362) | 39,568 (Δ 395) |
| 年間有収水量(千 m^3) | 35,795 (Δ 194) | 35,989 (2) | 35,987 (9) |

2. 損益計算書

(単位：千円)

| | | |
|--------------------|------------------|----------------------------------|
| 1 営業収益 | 7,057,881 | |
| 2 営業費用 | <u>5,946,415</u> | |
| 営業利益 | | 1,111,466 |
| 3 営業外収益 | 578,374 | |
| 4 営業外費用 | <u>288,975</u> | <u>289,399</u> |
| 経常利益 | | 1,400,865 |
| 5 特別利益 | 1,982 | |
| 6 特別損失 | <u>3,152</u> | <u>Δ 1,170</u> |
| 当年度純利益 | | 1,399,695 |
| その他未処分利益剰余金 | | <u>977,920</u> |
| 当年度未処分利益剰余金 | | <u><u>2,377,615</u></u> |

3. 貸借対照表

(単位：千円)

| | | | |
|-------------|-------------------|---------------|-------------------|
| 資産の部 | | 負債の部 | |
| 固定資産 | 39,953,193 | 固定負債 | 13,378,892 |
| 流動資産 | 5,891,414 | 流動負債 | 2,211,539 |
| | | 繰延収益 | 5,343,385 |
| | | 負債合計 | 20,933,816 |
| | | 資本の部 | |
| | | 資本金 | 21,007,347 |
| | | 剰余金 | 3,903,444 |
| | | 資本合計 | 24,910,791 |
| 資産合計 | 45,844,607 | 負債資本合計 | 45,844,607 |

4. 主要事業

| | |
|-------------|-----------------------------------|
| 第二期水道施設整備事業 | 1,778,144 千円 |
| 基幹管路耐震化工事 | 導送水管及び配水本管耐震化 2,172m、水管橋 1 箇所 |
| 基幹施設耐震化工事 | 取水井 3 箇所（内部 4 号井、三滝 4 号井、小牧 3 号井） |
| 経年管布設替工事 | 2,948m |
| 経年施設更新工事 | 神田取水場受変電設備更新 ほか |
| 水源確保工事 | 朝明水源系取水施設（4 号井）更新 ほか |

5. 一般会計からの経費支出

| | |
|----------------|-----------|
| 消火栓補修及び新設工事負担金 | 33,924 千円 |
|----------------|-----------|

14. 病院事業会計決算

患者数は入院が 157,801 人（対前年度比 1.3%減）、外来が 406,515 人（対前年度比 0.4%減）となり、診療単価は入院が 80,951 円（対前年度比 2.4%増）、外来が 16,687 円（前年度比 1.9%減）となりました。

損益計算においては、収益 214.6 億円^(※1)（対前年度比 0.7%増）、費用 211.1 億円^(※2)（対前年度比 1.4%増）となり、4 年連続の黒字となる当年度純利益 3.5 億円を確保することができました。また、当年度未処理欠損金は 9.9 億円となりました。

施設整備の面では、省エネルギー推進のために E S C O 事業の一環としてボイラや空調等の設備導入を行うとともに、内視鏡・X線 TV 室の移転拡充工事及び化学療法室の拡充工事を完了しました。また、質の高い医療の提供と検査の待ち時間短縮を図るため、改修工事を実施したうえ 3 テスラ MR I 装置を導入しました。加えて、患者に安心、安全で高度な医療を提供するために、生体情報モニタリングシステムや核医学診断用検出器回転型 S P E C T 装置などの整備を行いました。

※1…下表「2. 損益計算書」の 1 営業収益 + 3 営業外収益 + 5 特別利益

※2…下表「2. 損益計算書」の 2 営業費用 + 4 営業外費用 + 6 特別損失

消費税及び地方消費税の取扱いについては、損益計算においては税抜額で計上しています。

1. 主要業務量

(1) 病床数 568 床

(2) 患者数

※ () 内は対前年度比を表す

| 区 分 | | 平成 30 年度 | 平成 29 年度 | 平成 28 年度 |
|-----|----------|------------------|------------------|------------------|
| 入院 | 年間 (人) | 157,801 (△2,013) | 159,814 (△3,002) | 162,816 (△6,025) |
| | 診療日数 (日) | 365 (0) | 365 (0) | 365 (△1) |
| | 一日平均 (人) | 432 (△6) | 438 (△8) | 446 (△15) |
| 外来 | 年間 (人) | 406,515 (△1,430) | 407,945 (331) | 407,614 (△18) |
| | 診療日数 (日) | 244 (0) | 244 (1) | 243 (0) |
| | 一日平均 (人) | 1,666 (△6) | 1,672 (△5) | 1,677 (0) |

2. 損益計算書

(単位：千円)

| | | | |
|---|------------------|-------------------|------------------|
| 1 | 医業収益 | 19,970,404 | |
| 2 | 医業費用 | <u>20,168,394</u> | |
| | 医 業 損 失 | | 197,990 |
| 3 | 医業外収益 | 1,380,606 | |
| 4 | 医業外費用 | <u>915,111</u> | <u>465,495</u> |
| | 経 常 利 益 | | 267,505 |
| 5 | 特別利益 | 113,696 | |
| 6 | 特別損失 | <u>27,244</u> | <u>86,452</u> |
| | 当年度純利益 | | 353,957 |
| | 前年度繰越欠損金 | | 1,347,138 |
| | 当年度未処理欠損金 | | 993,181 |

3. 貸借対照表

(単位：千円)

| | | | |
|-------------|-------------------|---------------|-------------------|
| 資産の部 | | 負債の部 | |
| 固定資産 | 17,983,663 | 固定負債 | 13,261,255 |
| 流動資産 | 14,734,824 | 流動負債 | 4,015,871 |
| | | 繰延収益 | 116,588 |
| | | 負債合計 | 17,393,714 |
| | | 資本の部 | |
| | | 資本金 | 16,317,954 |
| | | 剰余金 | △993,181 |
| | | 資本合計 | 15,324,773 |
| 資産合計 | 32,718,487 | 負債資本合計 | 32,718,487 |

4. 主要事業

| | |
|-------------------------|------------|
| 施設整備 | |
| E S C O事業（工事請負費分） | 209,952 千円 |
| 透析室ほか改修工事 | 187,614 千円 |
| 空気式自動制御機器更新工事 | 115,998 千円 |
| MR I 室ほか改修工事 | 93,677 千円 |
| 院外北駐車場拡張整備工事 | 16,291 千円 |
| 機器整備 | |
| 全身用磁気共鳴断層撮影装置（3テスラMR I） | 154,440 千円 |
| 生体情報管理システム（システムサーバー） | 58,968 千円 |
| 生体情報モニタリングシステム | 49,032 千円 |
| 核医学診断用検出器回転型S P E C T装置 | 38,357 千円 |
| 内視鏡システムセンター | 31,968 千円 |

5. 一般会計からの経費支出

1,308,168 千円

| | |
|------------------|------------|
| 負担金（収益的収入） | |
| 企業債償還金利子、長期追加費用等 | 720,889 千円 |
| 負担金（資本的収入） | |
| 企業債償還金元金 | 587,279 千円 |

15. 下水道事業会計決算

処理区域内戸数は110,791戸となり、前年度に比べ2,703戸(2.5%)増加、年間有収水量は24,879千 m^3 で前年度に比べ255千 m^3 (1.0%)の増加となりました。

損益計算においては、収益157.0億円^(※1)(対前年度比5.2%増)、費用133.4億円^(※2)(対前年度比1.6%増)となり、差引23.7億円の当年度純利益が生じました。これに企業債償還に充当した減債積立金を振り替えた18.0億円と合わせて、当年度未処分利益剰余金は41.7億円となりました。

また、平成30年4月に使用料改定を行ったことから、下水道使用料は10.7億円(税込、対前年度比26.7%)の増収となりました。

主な事業では、汚水管渠整備工事として、管延長で11,851mを整備し、処理場整備としては、日永浄化センターの設備更新事業を行いました。また、ポンプ場整備においては、新南五味塚ポンプ場及び吉崎ポンプ場の建築工事や設備工事等の進捗を図り、新南五味塚ポンプ場については平成30年12月供用開始となりました。

※1…下表「2. 損益計算書」の 1 営業収益+3 営業外収益+5 特別利益

※2…下表「2. 損益計算書」の 2 営業費用+4 営業外費用+6 特別損失

消費税及び地方消費税の取扱いについては、損益計算においては税抜額で計上しています。

1. 主要業務量

※()は、対前年度増減を表す

| 区 分 | 平成30年度 | 平成29年度 | 平成28年度 |
|-------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 処理区域内戸数(戸) | 110,791 (2,703) | 108,088 (3,099) | 104,989 (1,788) |
| 年間有収水量(千 m^3) | 24,879 (255) | 24,624 (189) | 24,435 (292) |
| 雨水排水整備済面積(ha) | 2,912.0 (10.7) | 2,901.3 (0.0) | 2,901.3 (1.6) |

2. 損益計算書

全体(雨水・汚水)

(単位:千円)

| | | |
|--------------------|-------------------|-------------------------|
| 1 営業収益 | 9,096,984 | |
| 2 営業費用 | <u>11,511,337</u> | |
| 営業損失 | | 2,414,353 |
| 3 営業外収益 | 6,607,650 | |
| 4 営業外費用 | <u>1,822,220</u> | <u>4,785,430</u> |
| 経常利益 | | 2,371,077 |
| 5 特別利益 | 225 | |
| 6 特別損失 | <u>1,897</u> | <u>△1,672</u> |
| 当年度純利益 | | 2,369,405 |
| その他未処分利益剰余金 | | 1,800,676 |
| 当年度未処分利益剰余金 | | <u>4,170,081</u> |

| | うち雨水分 | | うち汚水分 | |
|---------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 1 営業収益 | 4,304,015 | | 4,792,969 | |
| 2 営業費用 | <u>5,119,096</u> | | <u>6,392,241</u> | |
| 営業損失 | | 815,081 | | 1,599,272 |
| 3 営業外収益 | 2,500,935 | | 4,106,715 | |
| 4 営業外費用 | <u>924,343</u> | <u>1,576,592</u> | <u>897,877</u> | <u>3,208,838</u> |
| 経常利益 | | 761,511 | | 1,609,566 |
| 5 特別利益 | 18 | | 207 | |
| 6 特別損失 | <u>62</u> | <u>△44</u> | <u>1,835</u> | <u>△1,628</u> |
| 当年度純利益 | | 761,467 | | 1,607,938 |

3. 貸借対照表

(単位：千円)

| 資産の部 | | 負債の部 | |
|-------------|--------------------|---------------|--------------------|
| 固定資産 | 227,335,632 | 固定負債 | 74,008,224 |
| 流動資産 | 8,459,868 | 流動負債 | 10,564,774 |
| | | 繰延収益 | 91,540,800 |
| | | 負債合計 | 176,113,798 |
| | | 資本の部 | |
| | | 資本金 | 53,364,738 |
| | | 剰余金 | 6,316,964 |
| | | 資本合計 | 59,681,702 |
| 資産合計 | 235,795,500 | 負債資本合計 | 235,795,500 |

4. 主要事業

| | |
|--|--------------|
| 管渠布設費 | 3,586,858 千円 |
| 塩浜雨水1号幹線水路築造工事、垂坂污水管渠布設工事(その4) 小古曾污水管渠布設工事(その1)、川島污水管渠布設工事(その5)ほか | |
| ポンプ場築造費 | 4,566,694 千円 |
| 吉崎ポンプ場沈砂池築造工事、吉崎ポンプ場放流渠築造工事、 新南五味塚ポンプ場雨水ポンプ設備工事 ほか | |
| 処理場築造費 | 349,156 千円 |
| 日永浄化センター第2系統監視制御設備工事 ほか | |
| 流域下水道建設負担金 | 121,082 千円 |

5. 一般会計からの経費支出 6,808,603 千円

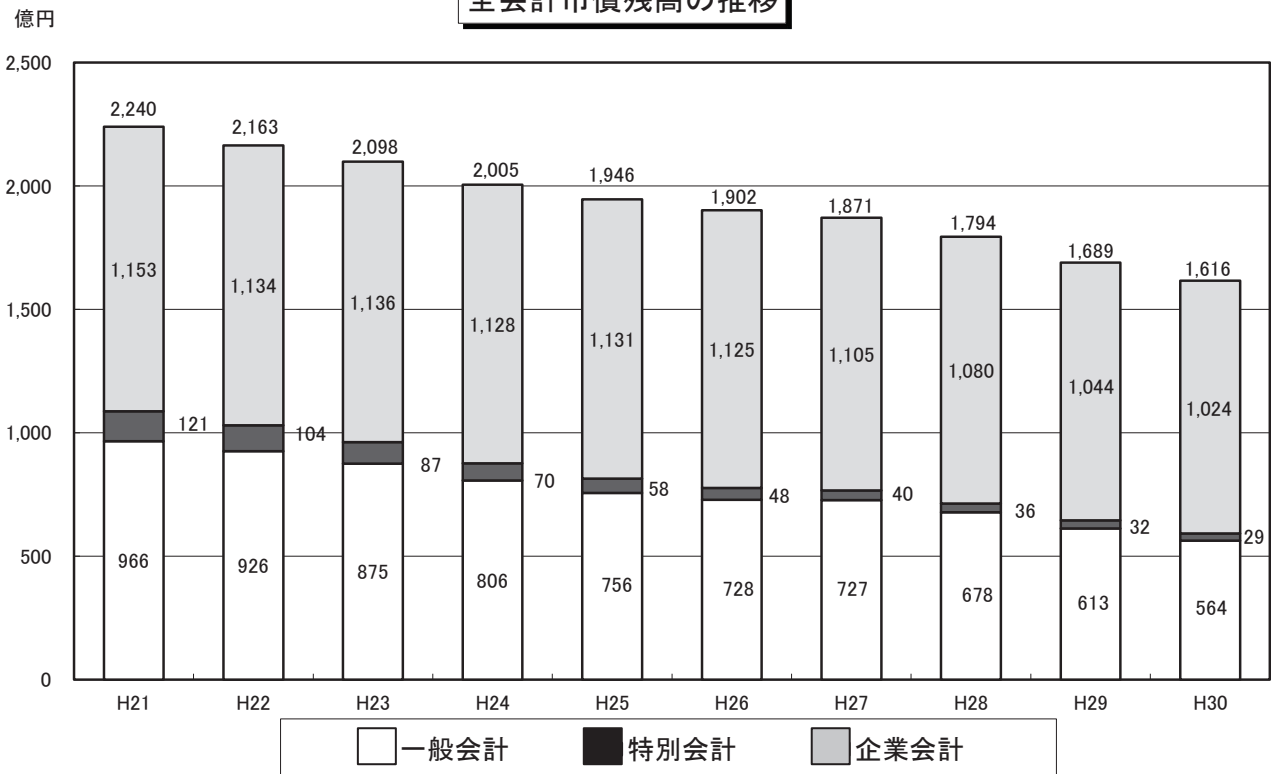
| | |
|--|--------------|
| 雨水処理費負担金 | 4,586,147 千円 |
| 汚水処理費補助金 | 2,222,456 千円 |
| 水洗便所に係る改造命令等に関する事務に要する経費、不明水の処理に要する経費、分流式下水道等に要する経費 ほか | |

16. 市債残高

全会計の市債残高は、平成16年度末の2,480億円をピークに減少しています。平成30年度末の市債残高は1,616億円となり、前年度より73億円減少しました。

また、市債発行の抑制に努めた結果、平成30年度は全ての会計において市債残高が減少しました。

全会計市債残高の推移



(単位: 千円)

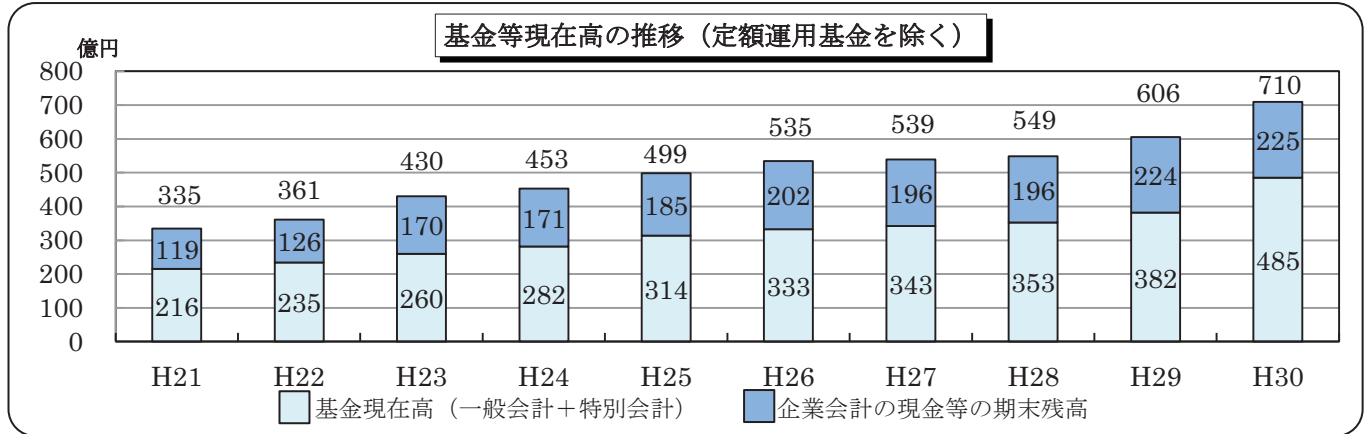
| | | 平成29年度決算(A) | 平成30年度決算(B) | 差引増減 (B)-(A) |
|------------------|-------------|-------------|-------------|-----------------|
| 一 般 会 計 | | 61,293,772 | 56,375,167 | △ 4,918,605 |
| 特 別 会 計 | 食肉センター食肉市場 | 895,188 | 825,457 | △ 69,731 |
| | 土地区画整理事業 | 414,015 | 241,544 | △ 172,471 |
| | 住宅新築資金等貸付事業 | 6,866 | 4,263 | △ 2,603 |
| | 農業集落排水事業 | 1,878,467 | 1,780,951 | △ 97,516 |
| | 小 計 | 3,194,536 | 2,852,215 | △ 342,321 |
| 企 業 会 計 | 水道事業 | 13,620,822 | 13,302,902 | △ 317,920 |
| | 市立四日市病院事業 | 11,591,393 | 10,977,142 | △ 614,251 |
| | 下水道事業 | 79,179,421 | 78,137,246 | △ 1,042,175 |
| | 小 計 | 104,391,636 | 102,417,290 | △ 1,974,346 |
| 全 会 計 合 計 | | 168,879,944 | 161,644,672 | △ 7,235,272 |

数値は四捨五入していますので、合計が合わない場合があります。

17. 基金等現在高

平成30年度末の基金残高は485億円となり、前年度に比べて104億円の増となりました。これは、将来の公共施設の大量更新に備えるため、市税の上振れ分73億円をアセットマネジメント基金へ積み立てたことや、前年度決算剰余金の二分のルール分及び翌年度に返還の可能性がある法人市民税の中間申告分などについて、23億円を財政調整基金へ積み立てたことなどによるものです。

平成30年度末の企業会計の現金等の期末残高は、ほぼ前年並みの225億円となりました。



一般会計及び特別会計の基金現在高

（単位：千円）

| | | 平成29年度 | 平成30年度 | 差引増減 |
|--------------|------------------|------------|------------|-----------|
| 一般会計 | 災害救助基金 | 104,397 | 103,295 | △1,102 |
| | 小菅科学教育振興基金 | 28,648 | 27,958 | △690 |
| | 財政調整基金 | 10,260,351 | 12,497,833 | 2,237,482 |
| | 社会福祉事業振興基金 | 471,134 | 465,573 | △5,561 |
| | 中小企業振興基金 | 4,531 | 4,582 | 51 |
| | 文化振興基金 | 182,077 | 178,156 | △3,921 |
| | 国際交流基金 | 96,963 | 95,597 | △1,366 |
| | 都市基盤・公共施設等整備基金 | 7,387,546 | 6,978,438 | △409,108 |
| | 減債基金 | 313,362 | 313,470 | 108 |
| | 広域基幹道路整備基金 | 999,186 | 999,531 | 345 |
| | 緑化基金 | 101,778 | 91,163 | △10,615 |
| | ふるさと・水と土保全基金 | 9,349 | 9,026 | △323 |
| | 市営住宅整備基金 | 0 | 48,320 | 48,320 |
| | 廃棄物処理施設整備等基金 | 856,409 | 847,633 | △8,776 |
| | 学校施設整備基金 | 1,688,565 | 1,789,162 | 100,597 |
| | まちづくり事業基金 | 2,641,145 | 2,531,808 | △109,337 |
| | 土地開発公社経営健全化基金 | 3,687,797 | 3,689,070 | 1,273 |
| | 市立四日市病院整備基金 | 15,979 | 15,985 | 6 |
| | 内部・八王子線基金 | 558,969 | 527,236 | △31,733 |
| | みえ森と緑の県民税市町交付金基金 | 29,169 | 40,554 | 11,385 |
| アセットマネジメント基金 | — | 7,280,000 | 7,280,000 | |
| 特別会計 | 競輪事業財政調整基金 | 1,509,498 | 1,510,019 | 521 |
| | 競輪事業施設等整備基金 | 752,446 | 805,871 | 53,425 |
| | 国民健康保険支払準備基金 | 3,548,849 | 4,432,295 | 883,446 |
| | 東橋北住環境整備基金 | 11,224 | 9,595 | △1,629 |
| | 介護保険給付費支払準備基金 | 2,892,138 | 3,241,991 | 349,853 |
| 計 | 38,151,510 | 48,534,161 | 10,382,651 | |

数値は四捨五入していますので、合計が合わない場合があります。

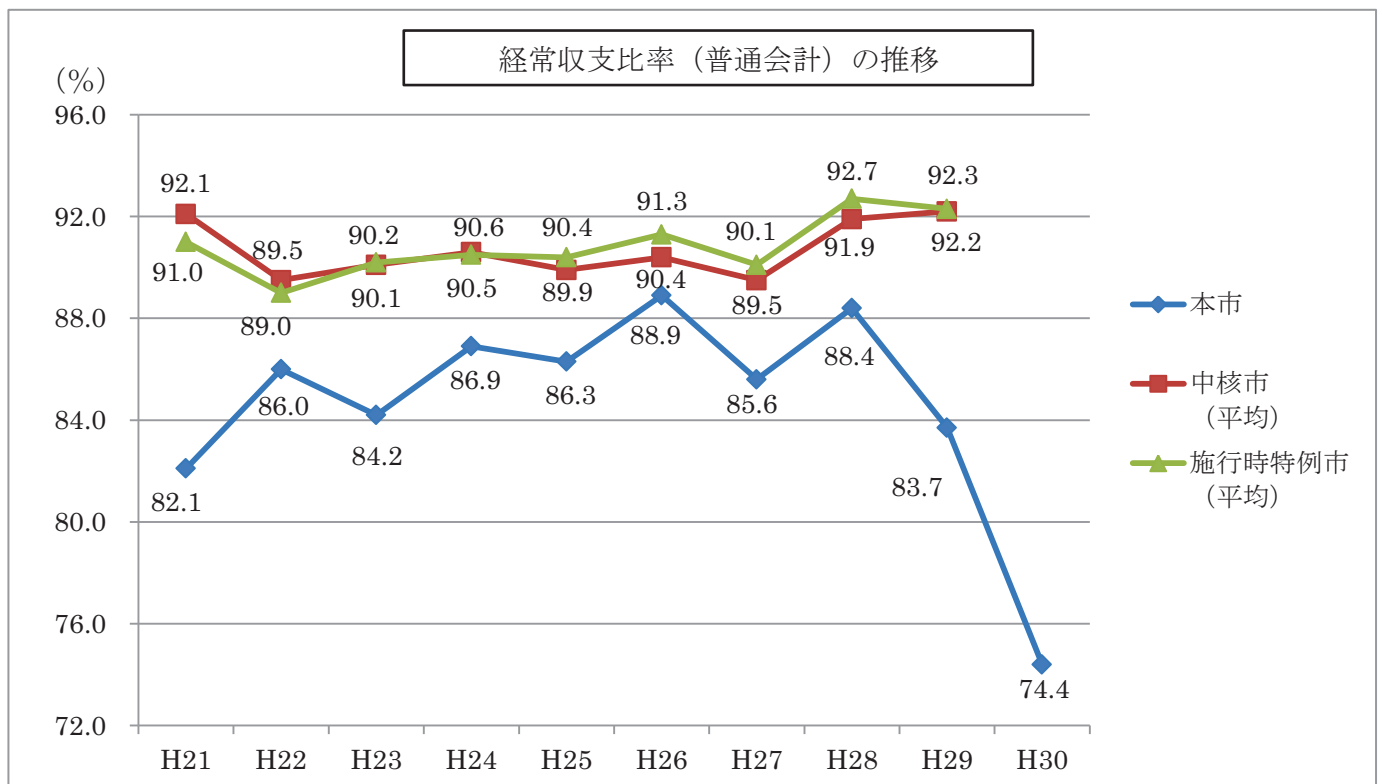
上のグラフ及び表の基金現在高には、定額運用基金の「土地開発基金」の残高1,151,154千円を含んでいません。

18. 経常収支比率

本市の経常収支比率は、同格都市である施行時特例市や中核市の平均を下回り、弾力性のある財政構造を保っています。

平成30年度は、市税の大幅な増収によって前年度から9.3ポイント改善し、74.4%と極めて良好な水準に達しました。

しかし、これは、平成30年度に限った特殊な事情によって市税収入が急増した結果、分母の経常一般財源総額が前年度と比べて14.6%増となったことによるものです。そのため、分子の経常経費充当一般財源が前年度と比べて1.8%増となっていることに留意し、引き続き経常経費の節減等に努めていく必要があります。



※経常収支比率は、臨時財政対策債を含む数値を記載しています。

経常収支比率:財政構造の弾力性を判断する指標で、経常経費充当一般財源÷経常一般財源総額×100の計算式によって求められます。

人件費、扶助費、公債費などの経常経費に充当された市税や地方交付税等の一般財源（分子）が、経常一般財源総額（分母）のうち、どの程度の割合を占めているかを表しており、この比率が高いほど、財政運営の弾力性が低く、財政状況が硬直化していることを示しています。

かつては、道府県で80%、市町村で75%を上回らないことが望ましいとされていました。しかし、近年は、投資的経費の財政需要が縮小する一方で社会保障給付等の経常経費が増大しているため、90%を超える自治体が多くなっています。

19. 健全化判断比率・資金不足比率

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」によって、平成19年度決算から健全化判断比率の4つの財政指標の公表が義務付けられ、さらに平成20年度決算からは健全化判断比率のいずれかが基準以上の団体には財政健全化計画等の策定が義務付けられました。

本市では、平成30年度決算における各指標の比率はいずれも基準未満となり、前年度の数値から改善しました。

| 指標 | 概要 | 国からの基準 | | H25算定 | H26算定 | H27算定 | H28算定 | H29算定 | H30算定 |
|----------|---|---------|------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 実質赤字比率 | 一般会計等を対象とした実質赤字の、標準財政規模に対する比率 | 財政再生基準 | 市町村20% 都道府県5% | 0% (赤字なし) | 0% (赤字なし) | 0% (赤字なし) | 0% (赤字なし) | 0% (赤字なし) | 0% (赤字なし) |
| | | 早期健全化基準 | 市町村11.25% 都道府県3.75% | | | | | | |
| 連結実質赤字比率 | 全会計を対象とした実質赤字の、標準財政規模に対する比率 | 財政再生基準 | 市町村30% 都道府県15% | 0% (赤字なし) | 0% (赤字なし) | 0% (赤字なし) | 0% (赤字なし) | 0% (赤字なし) | 0% (赤字なし) |
| | | 早期健全化基準 | 市町村16.25% 都道府県8.75% | | | | | | |
| 実質公債費比率 | 全会計を対象とした一般会計等が負担する元利償還金及び準元利償還金の、標準財政規模に対する比率 | 財政再生基準 | 35% | 12.2% | 11.3% | 9.8% | 8.7% | 7.8% | 6.2% |
| | | 早期健全化基準 | 25% | | | | | | |
| 将来負担比率 | 全会計及び設立法人等を対象とした一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の、標準財政規模に対する比率 | 財政再生基準 | | 50.2% | 46.6% | 37.5% | 36.7% | 34.4% | — |
| | | 早期健全化基準 | 市町村350% 都道府県400% | | | | | | (△5.2%) |

| 指標 | 概要 | 国からの基準 | | 区分 | 会計名 | H25算定 | H26算定 | H27算定 | H28算定 | H29算定 | H30算定 |
|--------|---------------------------------------|---------|-----|--------|----------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 資金不足比率 | 公営企業(法適用企業・法非適用企業)ごとの資金不足額の事業規模に対する比率 | 経営健全化基準 | 20% | 法適用企業 | 水道事業会計 | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) |
| | | | | | 下水道事業会計 | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) |
| | | | | | 市立四日市病院事業会計 | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) |
| | | | | 法非適用企業 | 食肉センター食肉市場特別会計 | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) |
| | | | | | 農業集落排水事業特別会計 | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) | — (赤字なし) |

○実質公債費比率

実質公債費比率は、3ヵ年平均で前年度の7.8%から6.2%となり、単年度では前年度の7.1%から3.6%へと大幅に改善しました。

これは、一般会計等で発行した地方債の元利償還金や、下水道事業会計の元利償還金に充当される一般会計からの繰出金が減少したことに加え、税収等の増に伴い標準財政規模が増加したことが主な要因となっています。

平成30年度は全国市町村平均(平成29年度6.4%)、県内市町平均(平成29年度6.7%)を下回りましたが、中核市平均(平成29年度6.2%)とほぼ同水準にあり、また施行時特例市平均(平成29年度5.1%)を上回っていることから、引き続き公債費の削減に努めていきます。

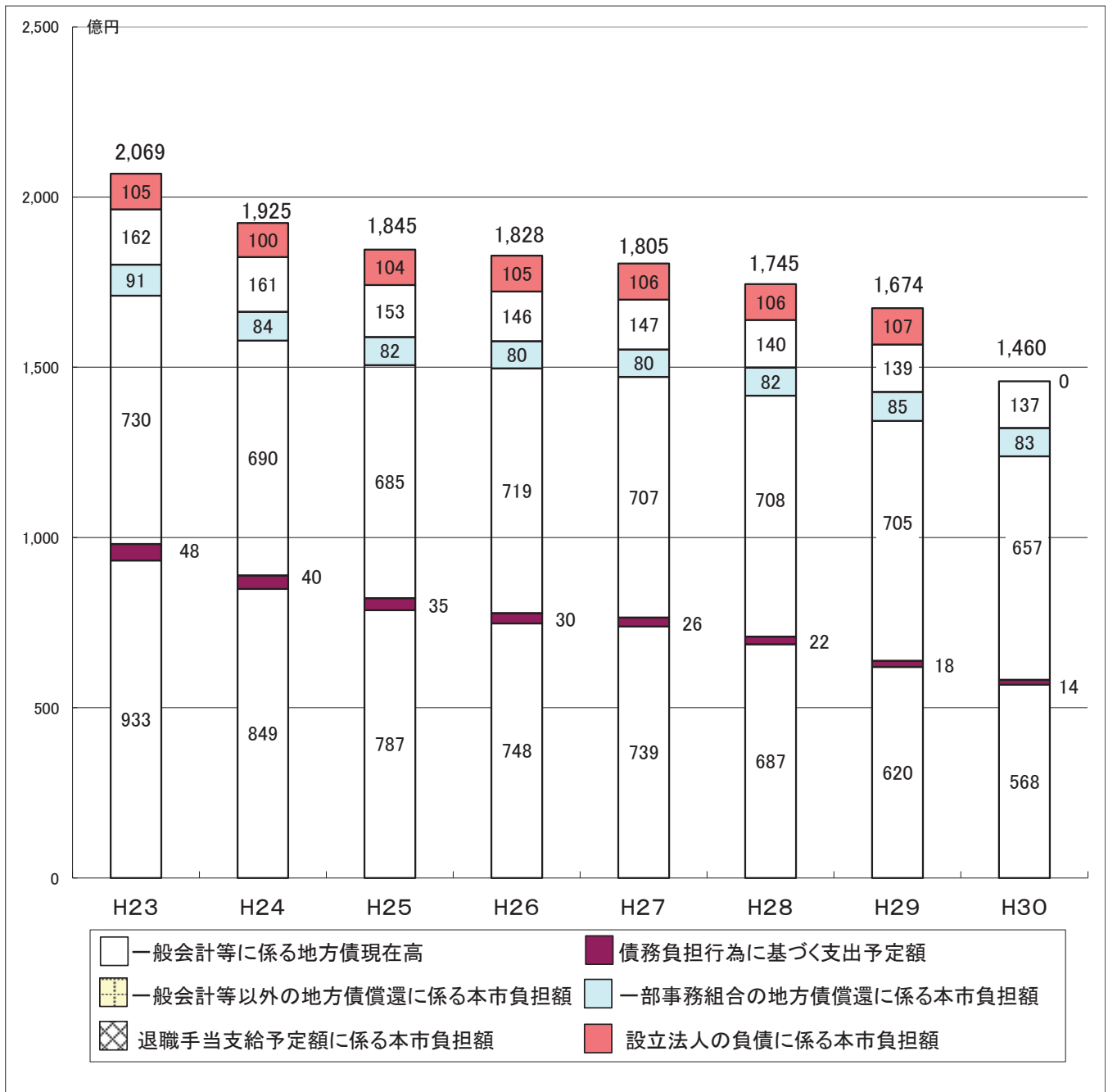
○将来負担比率

将来負担比率は、前年度の34.4%から△5.2%となり、大幅に改善しました。

これは、一般会計等の地方債残高が52億円の減となったことや、平成30年度に四日市市土地開発公社清算に伴う債権放棄が完了したことにより、設立法人の負債に係る負担額が107億円の減となったことで、将来負担額が大幅に減少したことに加え、アセットマネジメント基金等への積立により、将来の負担に対して充当可能な基金が105億円の増となったことが主な要因となっています。

今後も、将来世代の負担を軽減し、健全な財政運営を維持するため、市債発行の抑制や、基金残高の確保などに取り組んでいきます。

将来負担額の推移



数値は四捨五入していますので、合計が合わない場合があります。

| 指標 | | H23算定 | H24算定 | H25算定 | H26算定 | H27算定 | H28算定 | H29算定 | H30算定 |
|---------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 実質公債費比率 | 全国平均 | 9.9% | 9.2% | 8.6% | 8.0% | 7.4% | 6.9% | 6.4% | - |
| | 県内市町平均 | 10.6% | 10.0% | 9.3% | 8.9% | 8.2% | 7.4% | 6.7% | - |
| | 四日市市 | 14.7% | 13.7% | 12.2% | 11.3% | 9.8% | 8.7% | 7.8% | 6.2% |
| 将来負担比率 | 全国平均 | 69.2% | 60.0% | 51.0% | 45.8% | 38.9% | 34.5% | 33.7% | - |
| | 県内市町平均 | 55.1% | 44.9% | 34.2% | 30.4% | 23.9% | 21.2% | 20.1% | - |
| | 四日市市 | 89.0% | 66.0% | 50.2% | 46.6% | 37.5% | 36.7% | 34.4% | △5.2% |

20. 財政運営の指標

四日市市行財政改革プラン 2017（H29～32）に定めた5つの行財政運営の指標である、経常収支比率、実質収支比率、実質公債費比率、全会計市債残高及び財政調整基金と都市基盤・公共施設等整備基金の年度末残高について、全ての指標で平成30年度の目標を達成しました。

1. 健全な財政運営の視点（フロー指標）

【指標1】 経常収支比率について、平成27年度の85.6%以下とする

【指標2】 実質収支比率について、3%～5%の水準を保つ

【指標3】 実質公債費比率について、平成32年度決算で6.9%以下とする

- 経常収支比率は、人件費、扶助費、公債費などの経常経費に、地方税などの経常的な一般財源収入がどの程度充当されているかを表しており、財政構造の弾力性を示す指標です。

平成30年度は、分母である経常的な一般財源収入が、市税の大幅な増加などにより前年度比で107.6億円増となる一方、分子である経常経費に充当した一般財源等は10.6億円の増に留まったことなどから、経常収支比率は大幅に改善しました。

しかし、これは、平成30年度に限った特殊な事情によって市税収入が急増した結果、分母の経常一般財源総額が前年度比で大幅増となったためであり、分子の経常経費充当一般財源が前年度比で増加していることに留意し、引き続き経常経費の節減等に努めていく必要があります。

(単位：%)

| | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 経常収支比率 | 86.0 | 84.2 | 86.9 | 86.3 | 88.9 | 85.6 | 88.4 | 83.7 | 74.4 |

- 実質収支比率については、営利を目的としない地方自治体では、黒字が多いほど良いというわけではなく、一般的に3%～5%が適正な水準であるとされています。

平成30年度の実質収支比率は、昨年度に引き続き、適正な水準の3.2%となりました。

(単位：%)

| | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 実質収支比率 | 3.4 | 3.3 | 2.8 | 3.6 | 3.1 | 3.7 | 2.3 | 3.4 | 3.2 |

- 実質公債費比率は、標準財政規模に対する元利償還金の割合であり、数値が低いほど柔軟な財政運営が可能となります。

市債発行額の抑制に努めてきたことから、平成30年度末では6.2%となりました。

(単位：%)

| | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 |
|---------|------|------|------|------|------|-----|-----|-----|-----|
| 実質公債費比率 | 16.4 | 14.7 | 13.7 | 12.2 | 11.3 | 9.8 | 8.7 | 7.8 | 6.2 |

2. 持続可能な財政基盤の確立の視点（ストック指標）

【指標 4】 全会計市債残高について、平成 32 年度決算で 1,700 億円以下とする

【指標 5】 財政調整基金残高 100 億円を維持する

都市基盤・公共施設等整備基金に収支不足額 11 億円以上を積み立てる

- 全会計市債残高は、一般会計、特別会計のほか、水道、病院、下水道の企業会計も含めた市債の残高です。

近年は、交付税措置のない市債や臨時財政対策債などの市債発行の抑制に努めてきたことから、平成 30 年度末の残高は 1,616 億円となりました。

(単位：億円)

| | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全会計市債残高 | 2,163 | 2,098 | 2,005 | 1,946 | 1,902 | 1,871 | 1,794 | 1,689 | 1,616 |

- 財政調整基金については、甚大な被害が想定される南海トラフ地震等の自然災害や、法人市民税等の市税の急減に備えるため、基金残高 100 億円の維持に努めます。

都市基盤・公共施設等整備基金については、第 3 次推進計画において国体関連施設等の大型投資事業が集中するため、その財源として、11 億円の収支不足を想定していましたが、市税収入の大幅増などにより取り崩しを抑えることができ、平成 30 年度末で 69.8 億円の残高を確保することができました。今後は、近鉄四日市駅周辺整備、新図書館などの大型プロジェクトや、渋滞対策等の重点的な公共事業に充てる財源として、計画的な繰り入れを行うことによって、着実な事業進捗を図っていきます。

(単位：億円)

| | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 |
|----------------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 財政調整基金 | 65.7 | 80.3 | 91.3 | 101.0 | 101.1 | 110.4 | 102.7 | 102.6 | 125.0 |
| 都市基盤・公共施設等整備基金 | 3.3 | 13.3 | 13.3 | 18.2 | 35.6 | 53.1 | 67.2 | 73.9 | 69.8 |

2.1. 他団体との比較

本市の平成 30 年度普通会計決算における財政指標(健全化判断比率を除く)を、平成 31 年 3 月に発行された地方財政白書等に基づき、平成 29 年度の中核市、施行時特例市平均と比較しました。

歳入構造については、市税等の自主財源比率が他団体に比べて高い水準にあり、国・県支出金などの依存財源に頼らない自主性の高い構造となっています。

歳出構造については、義務的経費比率が他団体に比べて低い水準で、財政の弾力性があることから、投資的経費比率が他団体に比べて高い水準にあります。

また、本市の経常収支比率、積立金現在高、地方債現在高も、他団体と比べると良好な水準となっています。

| | 平成 30 年度 | 平成 29 年度 | |
|-----------------|---------------|----------------|---------------|
| | 本 市 | 中核市 平均 | 施行時特例市 平均 |
| 自主財源比率 | 72.6% | 50.8% | 54.1% |
| 義務的経費比率 | 40.8% | 53.3% | 50.6% |
| 投資的経費比率 | 14.5% | 12.9% | 12.9% |
| 経常収支比率 | 74.4% | 92.2% | 92.3% |
| 積立金現在高 | 38,543,985 千円 | 24,933,765 千円 | 14,552,329 千円 |
| 人口一人当たり*の積立金現在高 | 123,472 円 | 63,237 円 | 55,847 円 |
| 地方債現在高 | 56,836,603 千円 | 147,758,732 千円 | 81,685,455 千円 |
| 人口一人当たり*の地方債現在高 | 182,071 円 | 374,743 円 | 313,482 円 |

※平成 31 年 1 月 1 日現在の住民基本台帳人口（本市：312,168 人）

中 核 市：法定人口が 20 万人以上で政令による指定を受けた市。（平成 31 年 4 月 1 日現在 58 市）

施行時特例市：法定人口が 20 万人以上で政令による指定を受けた市で、平成 27 年 3 月末に廃止されたものの、経過措置として権限は従来そのままとされている市。（平成 31 年 4 月 1 日現在 本市を含む 27 市）

自主財源比率：地方公共団体が自主的に収入する市税等のいわば自前の財源のことを指し、この数値が高いほど歳入の構造として自主性が高いといえます。

義務的経費比率：歳出のうち、その支出が義務付けられ節減できない人件費、扶助費、公債費が歳出全体に占める割合のことで、財政の弾力性を図る指標の 1 つであり、この数値が低いほど財政の弾力性があるといえます。

投資的経費比率：支出の効果が資本形成に向けられ、ストックとして将来に残るものに支出される建設事業費等の経費が歳出全体に占める割合のことで、この数値が高いほど資本が形成されたといえます。

経常収支比率：財政構造の弾力性を判断するための指標で、数値が低いほど弾力性があります。

積立金現在高：災害や急激な景気後退などに備える財政調整基金や、廃棄物処理施設を整備するなど、特定の目的のために資金を積み立てる特定目的基金などの基金の現在高です。

地方債現在高：市が発行した市債の現在高で、年度末の借金の残高です。額が少ないほど、将来の財政負担は小さくなります。

